NEWS RELEASE
U.S.M.Holdings

2026年11月24日

株式会社マルエツ

マルエツ サービス介助士の育成25周年
社内インストラクターによる研修を継続し、「やさしいお店づくり」を推進

株式会社マルエツ（本社：東京都豊島区、代表取締役社長：本間 正治、以下、マルエツ）は、2001年11月に開始した「サービス介助士」の育成が、このたび25周年を迎えましたので、お知らせいたします。

マルエツでは、2001年11月からサービス介助士の育成に取り組んでいます。2008年には店長の必須資格として取得を推進するとともに、公益財団法人日本ケアフィット共育機構公認の社内インストラクターを育成。社内で資格取得講座や検定試験を実施する体制を整え、継続的に人材育成を進めてきました。現在は1,121名の有資格者がマルエツで活躍しています。
※サービス介助士は、公益財団法人日本ケアフィット共育機構が認定する資格です。



■ サービス介助士とは

「誰もが誰かのために、共に生きる社会」を目指して

サービス介助士は、高齢の方や障害のある方など、多様な人々に対する接遇の心構えと介助技術を身につける、公益財団法人日本ケアフィット共育機構認定の資格です。

資格取得にあたっては、加齢による身体の変化や障害への理解、相手の立場に立ったコミュニケーションなどを学びます。また、営業中の店舗で実施する高齢者疑似体験や車いすの操作・介助、視覚障害のある方への手引き、聴覚障害のある方への接し方など、実践的な演習も行います。

こうした学習を通じて、一人ひとりの状況や意思を尊重し、必要なサポートを適切に行うための知識と技術を習得します。



サービス介助士研修の様子

■ 多様なお客さまへの理解を深める、記念イベント講座を社内で開催



記念イベント講座の様子

育成開始から25年の節目を迎えるにあたり、従業員が改めて多様なお客さまへの理解を深め、日々の接客を見つめ直す機会として、社内イベント講座を2回にわたり実施し、公募で延べ77人の従業員から申し込みがありました。今回のイベント講座では、蕨市役所や公益財団法人日本盲導犬協会から講師を迎え、認知症や視覚障害のある方への理解を深める講座・手引き体験などを実施しました。

【主なプログラム】

・認知症サポーター養成講座（ご協力：蕨市役所健康長寿課）

認知症に関する基礎知識や、認知症の方への具体的な接し方や対応方法を学びました。

・障がい者雇用に関する講話

マルエツの特例子会社マーノの取り組みを通じて、障がいのある方とともに働くことへの理解を深めました。

・盲導犬・視覚障害への理解を深める講話と体験

（ご協力：公益財団法人日本盲導犬協会）

盲導犬ユーザーの方のお話を伺うとともに、盲導犬への接し方や、視覚障害のある方へのサポート方法を学びました。



■イベントに参加した従業員の声（サービス介助士有資格者）

知っていることが、最初の一歩を変える

今回のイベントでは、認知症のお客さまへの対応をケーススタディで学びました。実際の現場で適切に対応するのは簡単ではありませんが、知っているのと知らないのでは、いざというときの行動が変わると思います。私自身、以前店舗で体調を崩されたお客さまに車いすで対応した際、サービス介助士の研修で学んだことが役立ちました。だからこそ、今回、資格を持っていない参加者から「自分も資格を取りたい」という声が聞けたのはうれしかったです。

どんなお客さまも、誰に声をかけても安心してお買物できるお店になるよう、こうした知識を持つ従業員がもっと増えていけばいいなと思います。



記念イベント講座の様子

■サービス介助士の目印

マルエツでは、サービス介助士のバッジや黄緑色のエプロンを目印に、お客さまのお買物をサポートしています。お買物中にお手伝いが必要なことや、お困りのことがございましたら、どうぞお気軽に従業員にお声がけください。





これからもマルエツは、一人ひとりのお客さまに寄り添い、誰もが安心してお買物を楽しめる「やさしいお店づくり」に取り組んでまいります。

以上

マルエツは、将来、わたしたちが目指す姿を≪ありたい姿≫として明文化し、活動指針としています。

≪ありたい姿≫
ブランドメッセージである「しあわせいかつ。」をもとに、
お客さま、従業員、そして地域の暮らしを支える「いちばん近い存在」に
なりたいという想いが込められています。

